

経営比較分析表（令和5年度決算）

和歌山県 北山村

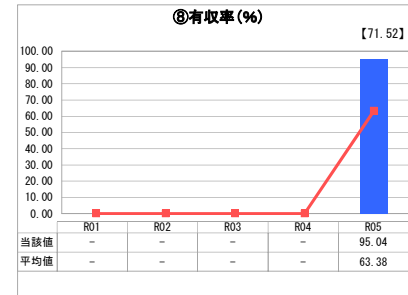
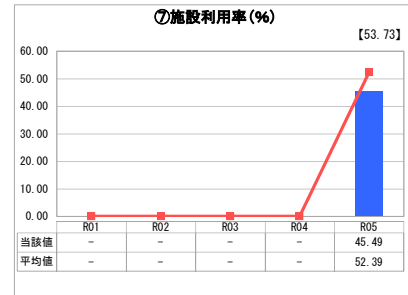
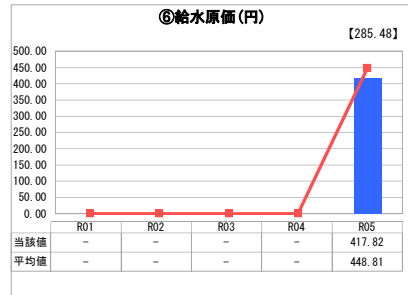
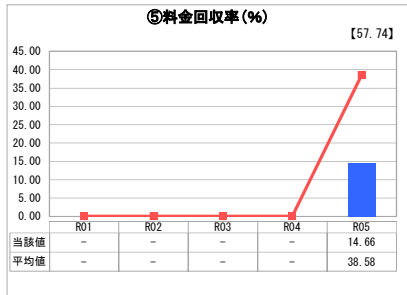
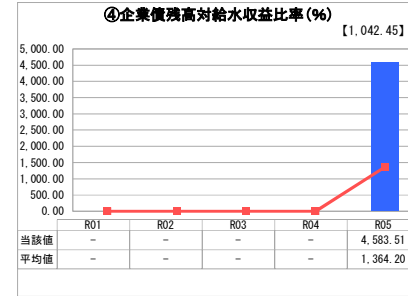
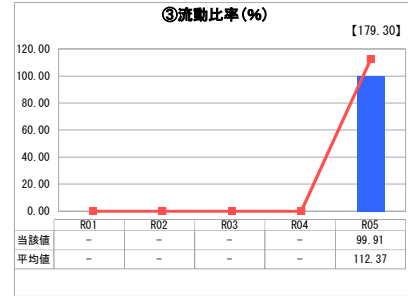
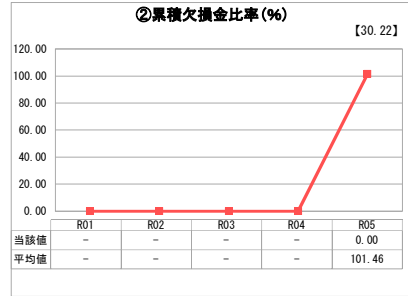
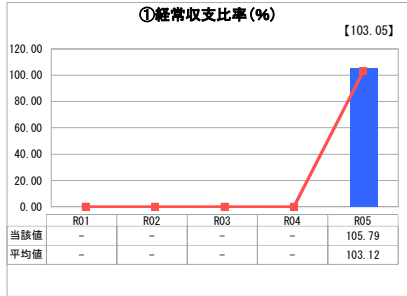
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	64.74	99.74	1,700	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
394	48.20	8.17
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
390	48.20	8.09

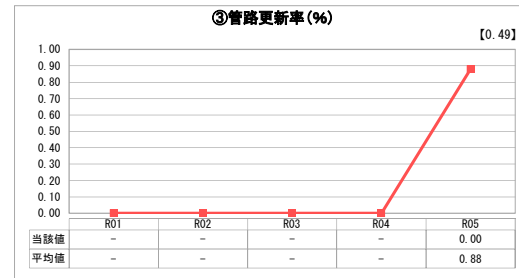
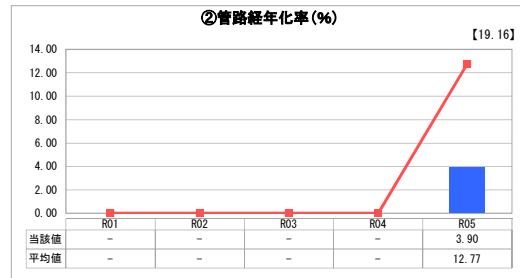
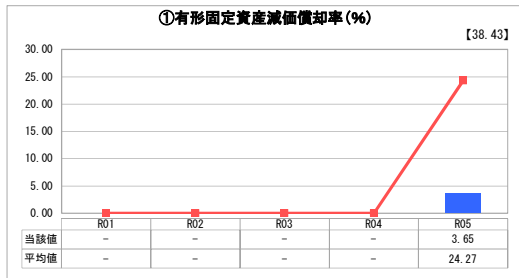
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
令和5年度より法適用に移行したため当該値は平均程度ですが、ほとんどが他会計繰入金による収入のため来年度以降の動向については注視が必要です。
- ② 累積欠損金比率
今年度はなし。
- ③ 流動比率
100%をわずかに下回っていますが令和3年度まで行っていた管路更新による企業債の増加による影響と思われます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
当村は人口が少なく給水収益がわずかなためこのような数値になっています。
- ⑤ 料金回収率
改善のためにはかなり大幅な経費削減や料金の引き上げが必要です。
- ⑥ 給水原価
平均値をやや下回っていますが、今後も経費削減に努めます。
- ⑦ 施設利用率
人口減少の影響により当該値は年々減少していく見込みです。今後耐震化に伴う施設の建て替えが必要な際にはダウンサイジングを検討が必要があると思われます。
- ⑧ 有収率
当該値は高い水準で推移しています。

2. 老朽化の状況について

平成23年から耐震管を用いた配水本管再整備を行っており、令和3年度ですべて完了しました。また、遠隔監視装置を導入しており、効率的な施設管理が行える設備を取り入れております。今後は導水管や各浄水場施設の耐震化などの整備が必要となっています。

全体総括

山間部の小規模な簡易水道事業で近年の高齢化や給水人口の減少に伴い、事業を運営していくための料金収入の確保が難しく一般会計からの財政援助がなければ運営が難しい状況です。また施設の改修による公債費の増加のほか、企業会計の適用といった新たな経費も増加しており、財源の確保には非常に苦慮しています。